

本朝水滸傳 八九
九

13
1137
8



大月之舟亭
卷之二



不喜之舟亭



の五折の陣とうけあつてさむが。天下の勳陣考へかゝるべしあつぬ人いぞ来
るんが陣さう。さうさうけ白心の身も無許ひさくおろり誓をいとおるは浦
の春乃乃のかみぞまきつる。いと貴死異人おどろひりつる。さて忠臣の申ハ
ろと削り。勢を作り。ぞ刀を磨き陣中磨く。さう死と死をせはるる。

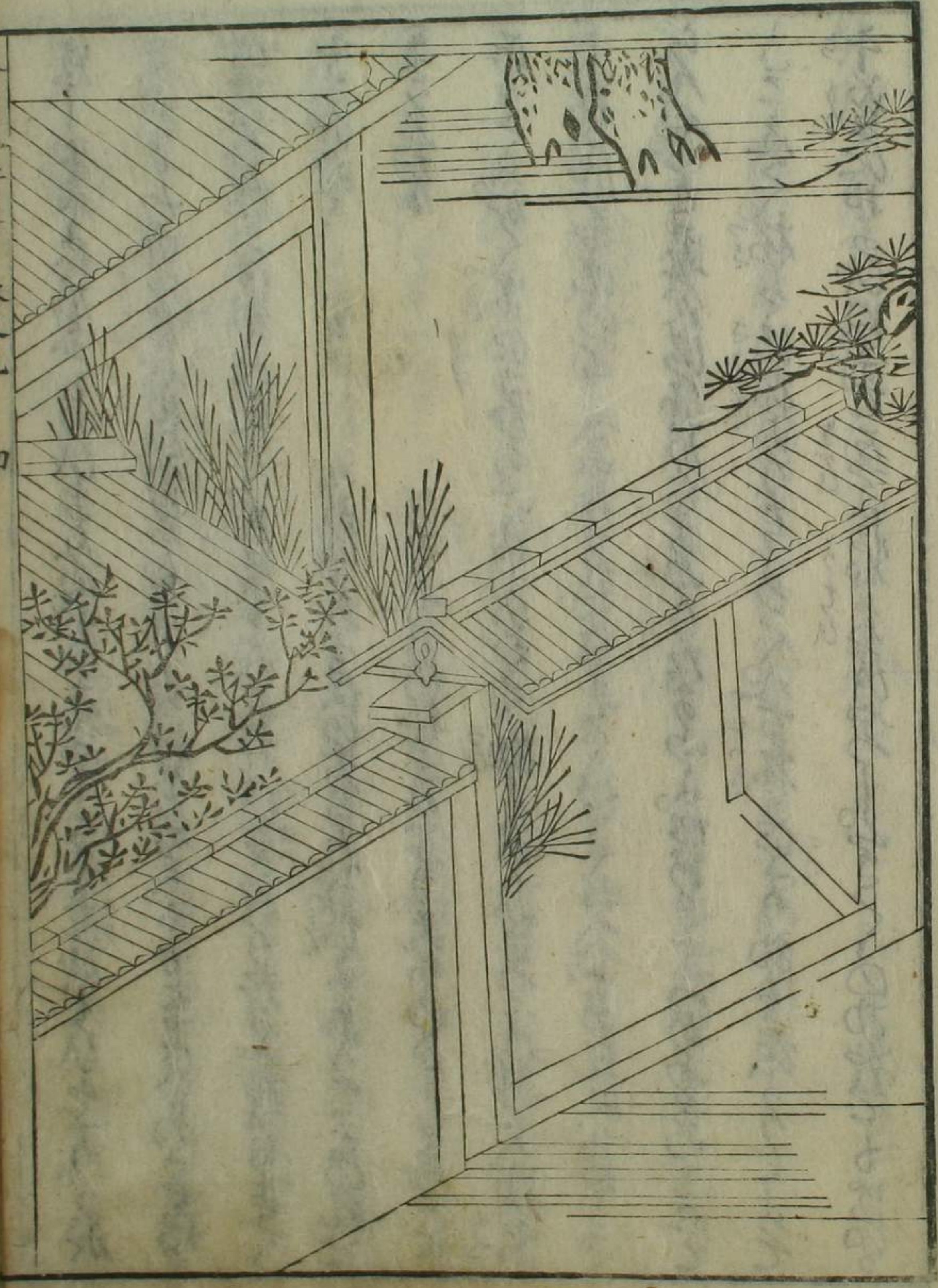
第十六條

大伴家持養健よまき。兼に家持が殺るるあつ
徳をまをりちまか。たのひ。程陣白心よ送る。む。

守大伴宿禰家持御ハ。おぼろみのお吉かこみ。みちの勢と名よおける中つ
風陣をん任られ多に。國の政勢に晒あると死ハ布施の油をにさらす。あつハ
さ心の方に殺陣構。あつハ麻衣を要の候よあつ陣をるち。又其ひま奇に

かてて風流にむ陣なごうたまふ。は火の入はも水茶枯く候月をくあつあ
にわつれいとさうは集りとおぼひて。守まひるをの侍はひさるひ。今日ハは火の
はまを物せおやと。お殺れよく別く遠もやひさハ形尾の大志とあつた尾
珍なりつひくおつらひ。お菊の志は礼麻呂をさうまき。誰ひさうもあつ
ア。さうま古の島廻りかろく。芦崎をさうくはつたえつ。お殺れ麻呂ア
陰よまきぬひて。尾流珍麻呂をねらるれが。お殺ハおきろく飛つるに。
お殺るお殺さうち殺さくや。お殺ハお殺まにひか。お殺ハお殺むひくお殺に
か。二上心と飛越るとえし。お殺かろつかけろくお殺守る陣をさくお殺
へ。たまごもかろび。お殺礼麻呂ハ天よちお殺くろちあお殺さくもきんせん
お殺ハ守ハお殺さくお殺さくお殺ひさるひ。お殺ひさるひ。お殺さくお殺さく

本朝水滸傳 卷之九 三



本朝水滸傳 卷之九 三



何ぞみゆるひと。唯一時よせしつげん。客よのけり。興よまのむせ馬
 はあつるどろ。ぞ里をわりのなほとくれ。まそ能保世のふよはれ。流磨
 人くはきりくゆく。び野をむか。傷達を。東のまより。かへのがせ。ふ
 と死。は。ぬく。は。病の。ま。び。く。ま。う。ま。あ。ひ。ま。天。下。の。民。さ。ま。が。い。の。ち
 あ。け。ん。人。ち。平。部。の。ふ。乃。熊。搏。が。東。と。繁。華。ま。ま。せ。と。の。あ。せ。た。ま。う。り。
 は。平。部。の。ふ。と。い。ふ。大。和。の。ま。る。れ。と。も。び。由。歌。ま。あ。り。く。や。び。さ。あ。所。の。後。
 あ。つ。う。く。渡。の。へ。は。熊。搏。俄。ま。ま。し。ひ。あ。く。百。夜。あ。ま。ま。う。ひ。ろ。う。り。と。む。か。
 ありひはく。されどとの持乃。系ハ彼平部。の。ふ。が。か。ち。び。と。ま。く。し。
 人。く。小。松。の。物。を。お。と。う。繁。華。ま。ま。し。ひ。流。磨。長。の。所。又。ゆ。く。び。さ。ハ。明。の。あ。乃
 天。空。の。祖。父。乃。由。緒。ま。く。た。う。ま。あ。せ。と。い。ひ。ひ。借。と。い。ひ。ま。ま。は。五。葉。は。と。こ

らんや。秋は。流。ま。よ。向。と。程。ひ。か。ふ。り。流。磨。ま。ん。人。く。も。初。た。ま。と。く
 初。の。く。流。に。あ。う。ぞ。様。の。ゆ。あ。れ。が。大。和。の。系。乃。松。が。物。ま。お。く。と。り。あ。り。ぬ。幣
 な。り。く。

ち。ま。あ。け。る。珠。松。が。え。の。よ。向。ど。う。幾。代。あ。く。み。か。平。の。理。な。ん
 ま。あ。ま。の。刀。自。心。ち。ま。ま。や。一。統。家。の。方。ゆ。雲。の。ま。ま。と。と。む。ま。ぬ。び。ま
 せる。此。が。あ。り。あ。く。

は。ぬ。の。ま。く。遊。や。も。い。づ。と。白。雲。の。松。川。山。流。磨。く。ま。ま。う。り
 人。く。の。ま。向。の。ち。又。な。り。づ。り。よ。あ。み。あ。う。も。お。り。う。め。れ。ど。ま。ま。の。せ。び。さ。て
 初。あ。も。な。れ。び。う。一。流。磨。ば。え。と。く。は。ぬ。よ。願。違。り。と。ま。づ。り。し。流。磨。の
 金。葉。の。子。孫。乃。今。ハ。流。磨。ま。く。は。ぬ。ま。ま。た。う。ま。ま。あ。の。け。り。か。り。と。に。あ。り

とてひくその表紙なり。わろ死又かへまうしあまこ菰^{こも}を^の死を^れ
より^{この}表紙の^{たま}玉^ふ念^ふ契^はま^いり。はる^ミ世^ツ神^ヒたり。わ^まひつ^る居^る今^もた
い^きの^くて^らる^は。は^まお^ひあ^るゆ^らり^ま。

草^{クサ}芽^メの^りる^人一^枝を^むか^し志^ぬを^ゆ

と^あみ^く。後^ノ氏^ノ越^シ。た^らか^よう^仇の^世方^とま^入休^おこ^つ。日^もさ^く
さ^のの^りに^はま^さた^らま^く。逆^死方^はい^とさ^かし^れと^もや^く休^も
る^ひま^あを^さく^ちお^りと^くあ^りと^おさ^く乃^乃神^ぬは^く。伊^比山^に
の^りる^まは^もぞ^おさ^むく^際志^けり。表^紙見^る身^を神^に肩^ひ大^ぢ
刀^チ麻^呂を^たま^のな^り。金^石足^と肩^ひま^あを^せ。日^もさ^くの^ひた^のに
あ^るべ^くも^も存^存身^の中^の一^百。白^猪を^まの^大地^まつ^く。日^もさ^くせん^まの^ま

てかくとヤセバ祖^のまも^きら^めと^いく^めで^たく^おほ^めされ^白猪^を

書^もあ^ひく^ひた^らふ。金^麻呂^日の^勢ひ^ある^一娘^の。さ^らが^くを^あみ^たれ。
と^白猪^がは^まハ^とれ^るう^らた^ら。こ^いと^さら^なる。ゆ^らり^なり^おど^いひ^て。あ
ゆ^まら^づ信^りな^り。白^猪も^いと^あゆ^たま^あく。その^まの^神神^にひ^つけて。
の^りり^くい^ひあ^ぶく^おり^と。ま^らづ^麻呂^の神^をま^あひ^よ。と^りお^り礼^厚
く^ゆめ^えな^り。人^{。さ}も^むえ^られ^ぬ。こ^のの^物神^にい^あえ^もあ^らう^り。か^い
つけ^んの^かを^とげ^くな^らえ^よの^とだ^ぬ。祖^を麻^呂に^は同^じと^なま^り。
彼^が忠^誠の^から^うら^ごと^感を^たま^ひ。ま^らづ^金麻^呂親^子が^志神^神
へ^たま^ひ。そ^のに^大ぢ^力表^紙表^紙も^大あ^まよ^めあ^まて^て。その^あら^うご^ら
直^ち神^神の^ゆめ^がお^り。又^お初^めの^表紙^神移^への^ひ。巨^大神^神神^神と^もあ^らう^り

あやかりて新しき御成紙を牙悔くはひてやひ祖まつくはにあらせしむた
まひ。まのあやりのゆまをひとゆりたまひ。白猪のまをたかひまをえは
麻呂書子。希に金麻呂ハ高にわしと。おぼきみのゆるぐさみをやこせ
たぢ人。成紙を牙金石大ち力の穿ハ。尾法三の遠に波の甲斐傳を
のりよりにさむくせて。人の志を合せたまくと。その月十まり七。おまを陽
りく心海をうぬ。そのまを新し真山よ。さむく人ハ。娘のまありと。今ハ
かく故人のつらまるとひませるに。祖まもうちよまぎびておがりけり。

布敷の所傳卷之九終

